

舞台公演記録のアーカイブ化のためのモデル形成事業 ドーナツ・プロジェクト

主催：早稲田大学 坪内博士記念演劇博物館

運営：舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)

早稲田大学

舞台芸術のデジタル・アーカイブを担うアートマネジメント人材育成

「幕が下りた瞬間消えてしまう舞台」に
「幕が下りた瞬間から始まるもう一つの舞台」の可能性を見出す

演劇博物館（通称：えんぱく）は演劇やダンスなどの舞台芸術に関するデジタル・アーカイブ活動を通じて、貴重な資料を未来へ保存・継承することを目指してきました。「ドーナツ・プロジェクト」は、舞台芸術のデジタル・アーカイブの構築と利活用を担うアートマネジメント人材の育成事業です。資料の保存だけでなく、新たな利活用の道を開拓し、舞台芸術を人類の共通財産とすることを目標とします。



令和6年度 事業プログラム

① 連続講座の開催

対面受講＋アーカイブ動画受講にわけて受講生を募集
令和6年度は座学6回＋ワークショップ4回。ワークショップの比率を増加させ「発展編」にふさわしい、実践的な内容の講座を行う。

〈令和6年度の取り組み結果〉

理論・実践・技術・ワークショップという4本の柱を軸に、受講生自らが主体的に学ぶ姿が見られた。

② シンポジウムの開催

舞台芸術アーカイブに関する活発な議論を誘発する

- ▶ 令和4年度 アフターミーティングの開催
- ▶ 令和5年度 シンポジウム＋アフターミーティング

〈令和6年度〉

「シンポジウム ドーナツ・プロジェクト2024
舞台芸術アーカイブの可能性～劇場の記憶を紡ぐために」
(12月開催予定)

③ 『DONUTS BOOK』の作成

講座内容をまとめた冊子を受講生に配布。

- ▶ 令和4年度は「基礎編」
- ▶ 令和5年度は「実践編」



〈令和6年度〉

2025年2月に「発展編」として配布予定

④ 有識者によるサポート

有識者を招き、事業内容の充実化を図る。
舞台芸術関係者や研究者による講座の外部評価会を開き、事業成果の反省・計画を行い、成果の底上げを目指す(令和6年度は11月実施予定)

育成の意義・目標

「舞台芸術専門のアーキビスト」の
職能化を目指す

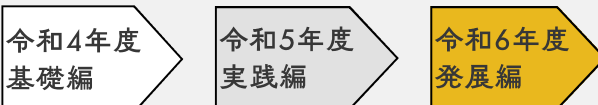
▶ 実際に劇団・劇場の製作現場や創作の現場で働く人、各アーカイブ機関・文化施設・自治体の舞台芸術担当者を育成することで、自立的にアーカイブ活動を行うための即戦力を養成する。

▶ 舞台芸術のアーカイブに興味のある学生などの人材を、専門的技能を身につけたアーキビストとして育成することで、将来的にアーキビストとして活躍できるようにする。

育成対象者

- ▶ 演劇、舞踊、伝統芸能などの舞台芸術に携わっている方（アーティスト、制作者、劇団・公演団体・劇場スタッフなど）
- ▶ 大学で舞台芸術や映像、アートマネジメントを学ぶ/学んだ学生
- ▶ 舞台芸術の研究者、各種文化施設の学芸員、キュレーター、アーキビストなど
- ▶ アーカイブって何？どうやって記録を残していけばいいの？著作権って何？と思う方 など

3年間の事業の流れ



自分が志向する舞台芸術アーカイブとはどのようなものか、自分の言葉で語れるようになる

それぞれのテーマをさらに深め、より実践的な内容に踏み込み、アーカイブ構築の実際を学ぶ

これまでの学びを現場に持ち帰り、実践することまでを視野に入れた実務的な知識・技術を学ぶ

What is DONUTS?

演劇やダンスなど舞台芸術は幕が下りた瞬間に消えてなくなってしまう。だから私たち演劇博物館は、舞台芸術のアーカイブを「ドーナツ」と呼んできました。舞台上で繰り返されたパフォーマンスは、まさにドーナツホールであり、中心でありながら、それ自体を保存することはできません。しかしその舞台に関連する資料をできるだけ多く収集することで厚みのあるドーナツを形成することができます。



POWER OF CULTURE

理論編「舞台芸術アーカイブの基礎」

1 舞台芸術とアーカイブ ～演劇にとって記憶とは何か？

吉見俊哉（國學院大學教授）

アーカイブの概念を哲学史と演劇史から説き、実演家、制作、劇場職員、文化施設職員、映像関係者と多岐に渡る育成対象者を包括する、本連続講座の根幹をなす講座となりました。



2 アーカイブガイドブック について解説

本間友（慶應義塾ミュージアム・コモンズ専任講師）

昨年度の成果物である『アーカイブガイドブック』『ファーストステップガイド』を参照しながら、アーカイブの基礎的な実践方法について解説する講座を実施しました。



実践編「プロセスとしての舞台芸術アーカイブ」

3 劇場におけるプロセスとしての舞台芸術アーカイブ

滝口健（世田谷パブリックシアター劇場部長）

世田谷パブリックシアターが過去に実際にやってきた実例を挙げ、知識を受け渡すためにいかにアーカイブが活かされているかをご紹介いただきました。場所・物・行為に焦点をあて、貴重な劇場内部の映像も公開しながらお話いただきました。



6 プロジェクトにおけるプロセスとしての舞台芸術アーカイブ

松井周（劇作家・演出家、劇団サンプル主宰）

第一線で活躍を続ける劇作家・演出家の松井周氏をお迎えし、2020年より実施されたコミュニティ「松井周の標本室」での活動におけるアーカイブの実践と利活用についてお話いただきました。



技術編「著作権と契約」

4 舞台と配信の著作権の基礎・契約処理について

福井健策（弁護士・ニューヨーク州弁護士 骨董通り法律事務所代表パートナー）

著作権学習は繰り返しが必要であるという観点から、昨年度までの内容を復習しつつ、今年度は音楽の著作権処理に焦点を当てました。実際の現場で権利処理を行う際の判断のポイントをフローチャートを取り入れながら解説していただきました。



5 舞台と配信の著作権の基礎・契約処理について

田島佑規（弁護士 骨董通り法律事務所 EPAD権利処理チーフ）

育成対象者には、事前に著作権処理のケーススタディの内容を共有し、自分なりの回答を用意してもらいました。福井弁護士の講座と関連して、特に音楽の著作権処理について詳細に解説していただきました。



将来への展望

1. アーカイブ動画や『DONUTS BOOK』『アーカイブガイドブック』等のコンテンツを活用しながら、支援プログラムの継続を図る。
2. 講座を常設化し、舞台芸術分野のアーキビストを引き続き育成することが望まれる。今後は多種多様な立ち位置の人に向け、個々の課題を解決できるような講座を目指し、ジャンルや業界の垣根を超えた交流促進の場を検討する。
3. 早稲田大学だけでなく、他大学や公共施設と協力体制を作りながら、舞台芸術アーカイブの人材育成ネットワーク構築を進める。



事業ウェブサイト

連続講座 発展編 (全10回)

1日目 8月22日(木)
2日目 8月30日(金)
3日目 9月9日(月)

対面受講者：25名
アーカイブ受講者：67名

ワークショップ 「自主的なアーカイブ活動のためのワークショップ」

7～10

アーカイブ計画のロールプレイングワークショップ

アドバイザー：三好佐智子（有限会社quinada）
ファシリテーター：NPO法人 演劇百貨店

それぞれの現場に持って帰ることのできるアーカイブ思考を育てることを目指し、利活用の目的を定め舞台芸術アーカイブを構築するロールプレイングをグループで行いました。

<1日目>

現在自分たちの制作している公演のアーカイブを50年後の未来に残すという設定。グループを作り、割り振られた作品例の情報を手掛かりに、アーカイブの利活用の目的を話し合う。

<2日目>

創作過程で生み出される多くの資料を、目的に合わせて記録物として選定、最終的に3点に絞り込んで目録を作る。どのような目的で、なぜこれらを残すのかをグループごとに発表。



昨年度までの成果

連続講座の開催

各年度 座学講座10コマ+ワークショップ2コマ

▶令和4年度

対面受講者：25名 アーカイブ受講者：114名

▶令和5年度

対面受講者：28名 アーカイブ受講者：115名

舞台芸術に関する手引書の作成

▶令和4年度

『PRESERVING THEATRICAL LEGACY』の和訳を公開
—米国American Theatre Project(ATAP)発行の演劇アーカイブマニュアル

▶令和5年度

『アーカイブガイドブック』の作成
『ファーストステップガイド』の作成
—ATAP版を踏まえて、日本の舞台芸術の実状に合わせたガイドブックを新たに作成